

調査報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

訪問調査日	平成21年 2月14日
調査実施の時間	開始 10時00分 ~ 終了 15時10分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 出水 (熊本県)
評価調査員の氏名	氏 名 淵上 一光 氏 名 下田 政信
事業所側対応者	職 名 管理者、介護職 氏 名 笠原直子、見崎友美 ヒアリングを行った職員数 (3)人

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年2月25日

【評価実施概要】

事業所番号	4370104905
法人名	社会福祉法人 真光会
事業所名	グループホーム 出水
所在地	熊本県熊本市国府2丁目6番91号 (電話) 096-375-3009
評価機関名	特定非営利活動法人 PRENET21
所在地	熊本市八幡9-6-51
訪問調査日	平成21年 2月14日

【情報提供票より】(20年12月17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 7月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤	人, 常勤換算 8.2人

(2) 建物概要

建物形態	(併設) / 単独	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	2階建て	1階 ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	
	または1日当たり 1,100 円			

(4) 利用者の概要(9月 末日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名
要介護1	3名	要介護2	3名		
要介護3	1名	要介護4	2名		
要介護5	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 86.3歳	最低 83歳	最高 90歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岩下医院、翼八口ー歯科診療所
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

熊本市民のオアシス、江津湖公園の近くに位置する事業所は、交通、買い物という生活していく上においては、欠かせない利便性と自然環境に恵まれた閑静な住宅街の中にあります。一步事業所内に足を踏み入ると、広々とした玄関スペースに利用者の手による生け花や書等の作品が温かく迎え入れてくれます。食堂や居間も吹き抜けに設計されており、開放的で明るくゆったりとした空間を作り出しています。利用者の方達も職員の皆さんと親しげに会話されており、落ち着いて生活が出来ていると感じました。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の努力目標として、地域との和、町内や校区の行事・活動に参加することによってグループホームの存在をアピールしたいというがありました。まだ十分ではないと思いますが、民生委員や自治会長とのパイプは、着実に大きくなって来ています。地域包括支援センターとも手を取り合って更に進めて欲しいと思います。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の内容については、グループホーム会議等で話し合うようにしている。また、注意を要する点や改善が必要な所は、早急な対策を立てて改善することにより、サービスの質の向上に取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	会議のメンバーは民生委員、自治会長、利用者の家族、地域包括の職員等で構成されている。討議内容は、利用者の状況報告や認知症に関すること、法律改正に関する事等の勉強会を含めて行なわれている。参加者からの積極的な意見・提言をいただけるようになると思います。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	受付窓口は、管理者が行なっている。随時受け付けている。また年に2回行なわれる家族会でも忌憚のない意見発言の場作りを心掛けている。更に第三者相談窓口も委嘱し、掲示している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	3月には、53名の幼稚園児の慰問も計画されており、その際、利用者の心のこもった100枚の手縫いの雑巾の贈呈式も行なわれることになっている。手縫いは、心がこもっているだけでなく、丈夫なんだそうです。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	法人全体としての基本理念「三つの和」を掲げ、さらに事業所独自でも家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にし、地域の中で笑顔で暮らせる環境作りを理念に、実践に向けた取り組みを行なっている。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	グループホーム会議の度ごとに実践に向けた話し合いを行なっている。また具体的な目標も設定し、努力している。		グループホーム会議では、毎回テーマと担当者を決め、理念の解釈や具体化について発表する方式を取りいれて活性化をはかっている。
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい	幼稚園児の慰問を受けたり、校区や幼稚園の運動会等にはさんかしている。		地域の一員として、町内や校区の行事・活動に参加し、グループホームの存在をアピールして欲しいと思います。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	評価の内容についてグループホーム会議等で話し合い、改善できるところは改善し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議は、2ヶ月に1回行なっている。参加者は民生委員、自治会長、利用者の家族、地域包括の職員等で構成されている。会議の内容は、状況報告や勉強会等で、出席者の意見交換の場となっている。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	市主催のグループホーム連絡協議会では、担当者より現況報告や指導を受け、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告	毎月1回は、利用者の現況報告を出水便りとともに発送している。請求書や領収書もその際、同封するようにしている。また急を要する場合は、その都度、速やかな連絡を行なうようにしている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている			
8	15	運営に関する家族等意見の反映	意見の受付窓口は管理者となっており、随時受け付けている。年に2回行なわれる家族会でも、忌憚のない意見発言の場作りを心掛けている。また第三者相談窓口も掲示している。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
9	18	職員の異動等による影響への配慮	職員の異動があっても、利用者への影響が極力抑えられるように、申し送り等は十分な配慮をもつて行なっている。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み	採用時には、施設内での初期研修を行なっている。その他、毎月1回行なわれる法人内研修や、グループホーム会議でも職員のスキルアップを図っている。また外部研修にも参加している。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
11	20	同業者との交流を通じた向上	法人内にグループホームが3ヶ所あり、年に3回合同会議を行なっている。サービスの質の向上及び、職員のスキルアップに取り組んでいる。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人と家族に来所してもらい、実際の様子を体験し、雰囲気に馴染んでもらってからサービスを開始するようにしている。また、デイサービスを併設しており、そちらを経由しての入所者もおられる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一人ひとりの能力を発揮してもらうために、まずは利用者自身にしてもらい、うまくいかない時は手伝いながら、出来た時は一緒に喜びを分かち合うようにしている。		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中での行動や会話、またちょっとしたことも見逃さないように観察している。些細なことの中に、本当の思いや意向が見出せることがある。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために、本人・家族の意見を取り入れ、職員間で話し合っ、介護計画を作成している。必要な場合は、主治医や看護師にも意見を求めている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の生活の中で、一人ひとりの体調の変化には特に気を配り、細かい点も見逃さない様、職員間で話し合っている。		モニタリングを充実させることにより、より現状に即した手厚いサービスが実現できるように取り組んでください。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所の立地を生かした支援に取り組んでいる。道路から離れており、また空き地もあるので、散歩や庭づくりと自然を楽しむ支援を行なっている。近くにはショッピングセンターもあり、買い物を楽しむこともできる。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くには協力医があり、何かあればすぐ適切な医療が受けられるようになっている。専門医の診察が必要な場合は、家族にお願いするようにしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた指針を家族に説明し、同意書を取り交わしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉使いや接し方には特に注意を払っている。また、本人の思いを大切に、否定しないように心掛けている。入室する場合も必ず了解をもらうようにしている。記録等の取扱いには細心の注意を払っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の好み、希望を最優先したその人らしい暮らしになるような支援を心掛けている。また、日常生活の中で、それぞれに選ぶ場面を提供し、自己決定できるような場面取りに努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援	体調に合わせて、献立作りから食材の調達、調理、盛り付け、配膳、後片付けと利用者と職員が声を掛け合いながらの共同作業が行なわれており、利用者の意見や経験が活かされている。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
23	57	入浴を楽しむことができる支援	浴室はインフラ整備も万全で、脱衣室も空調機が取り付けられており、快適温度に保たれている。入浴は本人の習慣や希望に合わせており、回数等は決められていない。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	玄関掃きや食事の準備など家事面を中心として、一人ひとりの能力に応じた場面作りを大切に考え、役割を果たした充実感を味わってもらえるような支援を心掛けている。また、生け花や習字等の楽しみごとの支援にも積極的に取り入れている。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
25	61	日常的な外出支援	事業所の立地を活かして、散歩や買い物の支援をしている。またドライブや幼稚園行事等にも参加している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践	現在、徘徊症状のある利用者はおられないが、施錠は身体拘束のひとつと捉えているので行っていない。夜間のみ、防犯の為に施錠している。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
27	71	災害対策	年に2回、消防訓練を実施している。うち1回は夜間を想定したものとしている。また消火器を使用した初期消火訓練は、法人が行なう消防訓練の際に行なっている。		地域の人々の協力が得られるよう、ネットワーク作りに取り組んで欲しいと思います。
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援	栄養バランスを考えた献立作りを行なっている。一人ひとりの食事摂取及び、水分摂取についてはチェック表を作成して把握している。		水分チェックについては、入浴後、外出後また夜間帯も水分不足にならないように配慮している。
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり	居間・食堂は吹き抜けになっており、ほどよい陽光を取り入れることが出来るように設計されている。また床暖房も完備している。壁面には利用者の作品を掲示したり、色紙で飾りつけをしたりして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。		
		共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮	本人や家族と相談して、これまで慣れ親しんだ調度品や日用品を持ち込んで、居心地良く過ごせるような支援を行なっている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 出水
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県熊本市国府2丁目6番91号
記入者名 (管理者)	笠原 直子
記入日	平成 21 年 1 月 26 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームの基本方針と4つの目標「家庭的」「個別対応」「自立支援」「地域密着・地域との連携」を作り上げて掲示している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	基本理念、三つの和「利用者との和」「地域との和」「職員の和」を共有し日々取り組んでいる。	理念の解釈や具体化について考えるところを、グループホーム会議のたびごとに、その日の担当者が発表するようにしている。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議を開催し、地域に啓発広報に取り組んでいる。家族には、グループホーム出水の広報誌・状況報告を出している。	○ 地域に向けては、もっとグループホームの広報活動に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日々の生活の中で、散歩や買物等、挨拶や付き合いができるよう努めている。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園等交流を行なっている。	○ 町内や校区の行事・活動に参加し、グループホームの存在をアピールしていきたい。まず、会長さんを訪問し情報を得るようにしたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ホーム近辺の草取り等清掃活動を行なっている。また、地域包括支援センターと一緒に認知症ケア・ネットワーク作りに協力している。地域のスーパーや美容院等を利用している。	○	地域包括支援センターとの連携を深め、今後グループホームとしての役割を地域の中に浸透させていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	家族からのご意見で、通院の際の本人の状況説明・健康チェック等のコピーを渡したり、職員が変わっても利用者・家族の方が安心できるよう、同じ対応が出来るようきちんと申し送りをする等、改善できるところは改善し、努力している。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の世話をされている方、地域包括支援センター職員、ご家族代表などを構成員として、2ヶ月に1回会議を行い、ご意見や評価を受けている。		地域の方々から情報を得て、地域とのつながりを作りたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターやグループホーム連絡協議会熊本市ブロック連絡会等に積極的に参加している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、職員や運営推進会議で報告をしたりして情報を共有している。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議内容に取り入れ、学習している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約等、説明必要時は十分に説明し同意を得ている。特に納得しておいてもらいたいところは、充分時間を掛けて説明をしている。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>市の介護相談支援員の訪問により利用者の意見を反映している。また、施設に第三者苦情受付窓口を準備し対応している。</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月1回、現況を報告している。また、日頃から何かあれば個々に合わせて密に報告し、情報を提供している。		「便り」を充実させる。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	窓口は管理者が担当し、随時受け付けている。家族会で意見交換を行い評価している。また、第三者相談窓口も委嘱し掲示している。		
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎年法人の運営方針(努力目標)に基づき職員間でチーム目標と具体的な計画を策定している。またグループホーム会議のたびごとに、実践できているかどうか相互点検している。		
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	行事内容や職員の要望を入れて毎月勤務表を作成しているが、緊急時等は変更し調整を行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が変わっても、入所者の方へは同じ対応が出来るように、きちんと申し送りをしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月1回法人内研修やグループホーム会議を開催している。採用時は初期研修(施設内)を行っている。また、機会を捉えて、外部研修にも参加し、参加者は他の職員にも情報を共有するようにしている。</p>	<p>年間計画を立て、職員一同勉強している。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同じ法人内にグループホームが3ヶ所あるため、年に3回合同会議(勉強会)を行っている。2ヶ月に1回グループホーム連絡協議会に参加しサービスの質の向上に努めている。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>計画的に有休消化をしている。何でも心おきなく話しやすい環境作りに努めている。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>目標管理シートやOJT計画を実施し各自で自己評価を行い、向上意欲を持って働けるよう取り組んでいる。</p>	<p>個人面接を行い、職員の意識改革と資質向上に努めている。</p>
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と面接しアセスメントを取りながら状況把握に努める。またケアマネジャーや担当職員・家族と連携し情報を得ている。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>本人と面接時に立ち会いのもと情報を得ている。その他いつでも家族の相談に応じている。また、入所前に自宅訪問を行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学をすすめ、一度来所して頂き、実際の様子を見極めてもらう。また、他のサービス事業所の紹介や市の窓口や包括支援センターへの情報も提供している。入所を希望される場合も、本人・家族が何を求めておられるのかしっかりと把握し、介護支援に生かすようにしている。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に本人と家族に来所してもらい実際の様子を体験し雰囲気に馴染んでもらっている。また、入所日に向け家族と相談しながらすみやかな対応に努めている。部屋作りにも、本人が馴染みやすいように充分気を配っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者との会話を大切に、その人に合った楽しみや話題作りを心掛けている。また、個人の能力を発揮してもらいお互いに思い合う関係作りに努めている。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	情報提供を密に行うことで、家族との信頼関係を築いている。また病院への通院や行事参加・家族会等の協力を得ている。		毎回面会や行事等の参加が多い。今後もこの関係を保っていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人とのかかわりを出るだけ持っていただけるように支援している。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、自宅訪問や墓参り等を行っている。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	調理・洗濯干し・散歩・レクリエーション等、日常の中で助けあう場面作りを心掛け、利用者同士が思い合える関係作りに努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状況に応じて、連絡を取ったり面会したり必要に応じて臨機応変に対応している。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り本人の気持ちを尊重し、計画実行している。また、困難な場合も本人のペースや状態に注意し意向の把握に努めている。介護支援相談員の訪問を月に一度行っている。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族・ケアマネジャーから情報を集めアセスメントに記入している。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	生活リハビリを中心に個人の力を発揮できるよう場面の提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意見を取り入れ、職員間で話し合っている。また、主治医や看護師の意見も反映している。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日頃から、個人の変化に応じて話し合いを行っている。	○	今後も定期的なモニタリングの充実化に努める。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は十分に行っている。また、情報は申し送りで共有し実践している。		特に重要な内容については、付箋紙を貼り確実に共有している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所は閑静な住宅地の中にあり、買物・散歩などに適している。また事業所内にも多くの部屋があり庭もあるので、これらを日常の活動に生かしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	防災・教育・地域活動に関しては、専門の方をお呼びしてご指導・ご支援を頂くようにしている。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	現在のところ、他のサービス利用の意向はつかんでいない。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センター主催の行事に参加したり、こちらの行事に招いたりしている。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医として近くにかかりつけ医があり、何かあればすぐに診察をお願いしている。また、家族の希望等をきき適切な医療を受けられるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	入居者に何かあればかかりつけ医へ家族を通して相談し、専門医の診断や治療を受けられるよう支援している。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	当事業所にも准看護師がいて、法人の看護師と連携をとりながら健康管理に当たっている。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	必要以上に長期入院とならないようその都度病院に相談し理解と協力をお願いしている。また見舞いや様子把握の回数をなるべく多くするようにしている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	指針を家族に説明し、契約を交わしている。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	特に今のところ取り組んでいないが、そういう事例があれば、万全を期すつもりである。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ダメージを最小限にする為に家族及び本人に関わるケア関係者と情報を交換し合っている。また、退所後も面会や家族と連絡を取り合い話し合っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>一人ひとりの人格を尊重しプライドを傷つけないよう言葉や態度に注意している。また、本人の思いを否定しないように心掛けている。個人情報に関わる場合も家族に話し理解を得ている。また個室にも無断で入ったりしないよう心掛けている。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>個人に合わせて日々自己選択・決定ができるよう支援をしている。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者一人ひとりのペースを尊重し職員側の都合にならないよう努めている。また、日常生活の中でそれぞれに選ぶ場面を提供し自己決定できるような場面作りに努めている。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>本人の着たい衣服、好みの衣服を着用してもらい、清潔感のあるその人らしいおしゃれが保持できるように努めている。また、家族とも相談しながら美容院へ出掛けたり出張サービス等を利用したり等の支援をしている。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立作りを利用者に相談し買物も一緒に行ったりしている。また、調理や片付けも出来ることを見つけながら出来る限り一緒に行っている。利用者の方々は喜んで役割を果たしておられる。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>おやつ時やお風呂上り等本人の好物や飲み物を出すようにしている。その他適時に好みのもを状況に合わせて楽しめるよう支援している。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日常生活のパターンの中での排泄を行えるように努力している。		「下剤使用から自然排便へ」を目標に、水分補給の充実と運動面の強化に努めている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の習慣や希望に合わせて無理強いせず、ゆっくりとくつろいだ気持ちで入浴できるよう努めている。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安眠支援のため、日中は家事を中心に生活リハビリに努めている。また、個人の睡眠パターンを把握しそれぞれにあった生活リズムの維持を意識的に行っている。居室や畳コーナー、ソファでの休憩・休息に配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事を中心に園芸や生け花、習字等利用者一人ひとりの能力に応じた場面作りに努めている。また、季節の行事・慣わし等家族や地域の方の力を借りながら楽しんでもらうよう支援している。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	それぞれが小遣いをもたれており、能力に応じた、金銭管理の支援を行う体制をとっている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買物、散歩、ドライブ、幼稚園行事参加等楽しみを見つけ支援している。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	毎月1回ドライブを計画し実行している。また、家族と一緒に食事や墓参り等、個別に機会作りを支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば、プライバシーの保護に配慮しながら支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族や知人、馴染みの人等気軽に訪問できる雰囲気を作っている。面会時間は決めておらず自由に受け入れ、宿泊希望があれば泊まれるように部屋や食事の提供などの支援をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内に身体拘束委員会を設置しており、拘束をしないケアに取り組んでいる。また、会議などで取り上げ、勉強会を行っている。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠も身体拘束のひとつとして捉え、居室や玄関に鍵はかけていない。防犯の為、夜間のみ施錠を行っている。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	プライバシーに配慮しながら利用者一人ひとりの状況を把握できるよう見守りやすい場所どりを心がけて行動している。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個人の能力レベルに応じて必要な物品を揃えて使用している。はさみや針等使用時は職員が見守りを行っている。薬や洗剤、刃物等の注意の必要な物品については保管場所・管理方法を厳しく取り決めている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応マニュアルに沿って対応している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内救急法研修を受けている。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回消防訓練を実施し、指導を受けている。	○	地域の人々の協力が得られるよう、地域にグループホームの存在を知っていただくよう努力している。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	日頃から、家族には利用者の状況を話し、今後起こり得るリスクについて説明を行っている。また、家族から相談があれば、主治医・看護師その他ケア関係者と話し合い支援している。危険の予知と回避に関する能力を高めるよう、常日頃から具体例を通し学びあっている。	○	「ヒヤリハット」記録を活用し、再発防止に努めている。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	体調の変化が見られたときは、早目の対応を取るよう全職員が注意している。必要があれば協力医やかかりつけ医に相談するようにしている。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が常に服薬情報に留意しており、医師の指示のもと服薬を行い症状の変化も確認している。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜などの繊維の多いものを取り入れた食事やおやつに配慮している。また、散歩や体操、家事仕事など活動に努め下剤など薬にできるだけ頼らないようにしている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	朝・昼・夕の歯磨きを行い、口腔内清潔に努めている。又、出血や炎症があれば家族に相談し協力歯科医に受診、治療を受けている。		訪問歯科医との連携を図り、口腔ケアに努めている。食前の口腔体操を実施している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考えた献立を作り1人ひとりの食事摂取をチェック表に記入し把握している。水分も、入浴後外出後夜間帯も水分不足にならないよう配慮している。		水分チェック表を作成し、意識付けを行っている。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し職員全員で対応している。又、毎年利用者職員はインフルエンザ予防接種を行っている。	○	今後も、予防と早期発見・早期対応が実践できるよう学習が必要である。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食品は新しい物を購入するようにし、買いためにしないように注意している。布巾・包丁まな板の消毒や冷蔵庫の清潔に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関横には花壇を設け、季節の花を植えて、来訪者を歓迎する雰囲気を出すようにしている。閑静な住宅街の中にあり、大きめの見やすい表札をつけている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間・食堂は開放感あふれる吹き抜けにし、床暖房も完備、天井には扇風機が回り換気とソフトで自然な温度コントロールをしている。又、テラスや小庭園で寛くことができる。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内に応接セット、畳コーナーを設けている。玄関内側にも長椅子を置き思い思いに過ごせるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し、これまでの慣れ親しんだ家具や生活用品を持ち込み使用している。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	室内の換気は適宜行っている。天井は開放的な吹き抜けで天窓を開け換気ができる。又、天井の扇風機が空気や温度をコントロールしている。冬は床暖房を利用し温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	グループホーム専用に建てられた施設であるため設備や工夫がなされている。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋入り口には写真入表札、トイレには表札や暖簾などを使用し、また個人の使い慣れた家具を置き自分の部屋をわかりやすくしている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	小庭園を眺めたり、水撒き、草取り等一緒に行う。園芸を楽しんだりベランダではベンチで寛くことができるようにしている。洗濯物は一緒に干している。		

サービスの実績に関する項目

項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者の
			利用者の2/3くらいの
			利用者の1/3くらいの
			ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	毎日ある
			数日に1回程度ある
			たまにある
			ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	ほぼ全ての家族と
			家族の2/3くらいと
			家族の1/3くらいと
			ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	ほぼ毎日のように
			数日に1回程度
			たまに
			ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	大いに増えている
			少しずつ増えている
			あまり増えていない
			全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	ほぼ全ての職員が
			職員の2/3くらいが
			職員の1/3くらいが
			ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての利用者が
			利用者の2/3くらいが
			利用者の1/3くらいが
			ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	ほぼ全ての家族等が
			家族等の2/3くらいが
			家族等の1/3くらいが
			ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

小規模ケアの特性を活かし、馴染みの関係を作り、家庭的な雰囲気の中で不安や違和感なく安定した生活が出来るように支援します。 お年寄りお一人おひとりの個性を尊重すると共に自分でできることに着目し、その人らしさを大切にします。 家族や地域との連携を密にし、笑顔で暮らせる環境作りに努めます。以上の点に力を入れ、日々取り組んでいる。